

# 指定管理者制度導入施設における モニタリング結果報告書（抜粋）

【茅ヶ崎市美術館】

- ・平成29年度 指定管理業務総括評価票
- ・平成28年度 指定管理業務総括評価票
- ・平成27年度 指定管理業務総括評価票



【施設番号 7】

第2号様式

平成29年度 指定管理業務総括評価票

施設所管課： 文化生涯学習部文化生涯学習課（内線：1242）

施設区分： 非公募施設

施設名		茅ヶ崎市美術館	
指定管理者名		公益財団法人茅ヶ崎市文化・スポーツ振興財団	
指定期間		平成28年4月1日～平成32年3月31日（4年）	
評価項目	評価基準	施設所管課コメント	
1 実施体制	人員体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業計画書に即し、人員を過不足なく配置している。</li> <li>必要な資格、経験等を有する人員が確保されている。</li> <li>事業計画書に即し、計画的に研修等を実施している。</li> </ul>	（公財）かながわ国際交流財団が主催するMULPA（マルパ）の関連研修に参加し、障がい者に関わる法律や特性に応じた対応方法等を学び、またアーティスト等と障がい者等と一緒に美術館までの道程をリサーチするという取組に着手した。本取組は「美術館までの道程が分りにくい」という来館者からの声にこたえるために実施するものである。31年度の展覧会において本取組の成果を紹介する予定のため、関係者等と連携しながら、引き続き来館者サービスの向上に向けて尽力してほしい。
	外部委託	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部委託の内容は、事前に市の承認を受けており、適切である。</li> <li>外部委託事業に対して協定書等を遵守させている。</li> </ul>	外部委託は適切に実施されており、協定書等も遵守されている。
	法令等遵守	法令、条例等に基づき、必要な点検（空調・冷蔵・冷凍機器等の随時点検含む）、報告等を行っている。	設備の保守点検等は適切に行われ、随時報告を受けている。空調設備は経年劣化に伴う不具合により一時緊急事態となったが、市・財団・業者等の連携対応により回避することができた。今後も報告・連絡・相談を徹底し、連絡体制のさらなる強化に努めてほしい。
	個人情報保護	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人情報保護に関する規程が整備されている。</li> <li>個人情報の漏洩、滅失等の事故防止対策を講じている。</li> </ul>	規程は整備されているが、事故発生時に迅速な初期対応ができるよう、職員一人ひとりが個人情報の取扱いについて意識を持つとともに、組織としても引き続きセキュリティ対策の強化に努めてほしい。
	情報公開	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報公開に関する規程が整備されている。</li> <li>協定書等に従い、情報を適切に管理、公表している。</li> </ul>	規程は整備されている。また、情報の管理は適切に行われている。29年度の情報公開請求は無かったが、引き続き適切な管理に努めてほしい。
	管理記録	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務日誌等を適切に整備、保管している。</li> <li>点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。</li> </ul>	業務日誌や点検・修繕等の履歴は適切に記録・保管されている。また、設備等の状況について点検等の結果報告があり現状の共有ができています。
	連絡調整	<ul style="list-style-type: none"> <li>協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。</li> <li>市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。</li> </ul>	日頃の連絡調整は適切に行われている。各種報告書は遅延気味であったが提出された。今後は展覧会の実績報告やアンケート集計など、各事業終了後、早急に対応することを心掛けてほしい。
	緊急対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>事故、災害等の緊急時の連絡体制が確保されている。</li> <li>緊急時のマニュアルが整備され、定期的に訓練等を行っている。</li> <li>緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行った。</li> </ul>	連絡体制は確保され、マニュアルも整備されている。毎年実施している定例的な訓練（消防訓練等）については、訓練自体がマンネリ化せぬよう、あらゆる緊急時のパターンを想定するなど、参加者全員が緊張感を持って臨機応変に対応できるような工夫をしてほしい。
	財務状況	団体の財務状況は、業務の継続が可能な状態である。	業務の継続が可能な状態である。市制施行70周年記念とホノルル市・郡との姉妹都市締結30周年を記念して開催した「ホノルル美術館所蔵『ハワイアンキルト展-Across The Ocean-1』」では、8,820人の観覧者を迎え、図録やグッズの一部が完売するなど、大変好評な展覧会となった。
	2 内容・水準	施設管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>協定書等に従い、開館日、開館時間等を遵守している。</li> <li>事故防止及び安全確保のために必要な対策を講じている。</li> </ul>
利用者対応		<ul style="list-style-type: none"> <li>利用許可、案内等を迅速かつ適切に行っている。</li> <li>利用者に対して設備、備品等を適切に提供している。</li> <li>言葉遣い、態度、服装等の接遇について適切である。</li> </ul>	いずれも適切に行われている。しかしながら、「わたしの提案」やアンケート等において、職員の態度や対応に関する苦情や意見が散見されるため、全職員が利用者の立場に立って行動することを意識し、適切かつ丁寧な対応を心掛けるよう徹底してほしい。
事業運営		<ul style="list-style-type: none"> <li>事業計画書に即し、受託業務を実施している。</li> <li>施設の目的に沿って、自主事業を実施している。</li> <li>事業内容がサービス水準の向上に寄与している。</li> </ul>	いずれも適切に行われている。29年度は、自転車、キルト、動物、花など、さまざまな切り口で当館の魅力が引き立つ企画をたくさん打つことができたことと考える。今後はあらゆるテーマで新たな魅力を見せてほしい。
維持管理		<ul style="list-style-type: none"> <li>仕様書等に従い、清掃、曇り、衛生管理を適切に行っている。</li> <li>仕様書等に従い、施設・設備の保守管理を適切に行っている。</li> <li>備品台帳に基づき、備品を適切に管理している。</li> <li>協定書等に従い、適切に修繕を行い、市に報告している。</li> </ul>	いずれも適切に行われている。しかしながら、空調設備と同様の事態が、その他の設備においても発生するおそれがあるため、今後は点検等の結果の報告のみで終わるのではなく、業者等へ状況の確認、対応の検討を行うなど、自ら率先して維持管理に従事してほしい。
環境配慮		省エネルギー、省資源等環境への配慮がなされている。	節電や温度調整等により省エネルギーに努めたが、空調設備の不具合等により、前年度より電気使用量が4,525kwh、電気使用料が884,083円の増加となった。30年10月よりLED照明を一部導入する予定だが、引き続き環境への配慮に努めてほしい。
広報活動		事業の開催案内、ホームページの管理等を適切に行っている。	事業の開催案内、ホームページ及び公式フェイスブックの管理等は適切に行われている。29年度は駅南口エレベーター横の壁面に展覧会の看板を設置することを試みたが、多くの人が行き交う駅構内において、展覧会PRとアクセス案内のための良きツールになったと考える。また、新聞記事等の様々なメディアに取り上げられ、市内外に向けて広く活動を周知できた。今後はあらゆる広報媒体を用い、積極的な広報活動に努めてほしい。

評価項目	評価基準	施設所管課コメント
2 内容・水準	苦情、要望等に対して迅速かつ適切に対応している。 苦情、要望等を整理し、遅滞なく市に報告している。	対応は迅速かつ適切に行われ、市への報告も遅延なく行われている。ほか、上記利用者対応欄に記載と同様。
	利用者アンケート	利用者アンケートでは妥当な結果を得ていた。今後はアンケート調査の結果をどのように取り扱っていくのか、収集しつ放してではなく、施設運営等に生かす方法を検討してほしい。
	利用状況	適正な水準にある。企画展「ハワイアンキルト展」は8,820人と歴代2位となる観覧者を迎える大変好評な展覧会となった。また、春季収蔵作品展「花染め」は歴代の収蔵作品展の中で最も多くの観覧者数を獲得することができた。観覧者数の総計は前年度と比べやや減少した結果となったが、自転車やキルトなど、これまでと少し違った角度で企画を打ち出したことで新規観覧者の獲得につながったといえる。
	その他自由項目	
	3 収支等	<p>経理事務 専用の口座、帳簿等を備え、適切に経理事務を行っている。</p> <p>予算執行 収支予算書の範囲内で適正に予算を執行している。</p> <p>経費削減 経費が削減され、又はその削減に向けた努力を行っている。</p> <p>収支状況 収支予算書と比較して、収支状況は妥当である。</p>
4 総合評価	<p>【展覧会等の事業について】 市制施行70周年とホノルル市・都との姉妹都市締結30周年を記念し開催した企画展「ハワイアンキルト展」では、北海道から沖縄まで全国各地から多くの方が訪れ、随時歴代2位の観覧者数を記録する大変好評な展覧会となった。作品展示だけではなく、講演会やチャリティートークなどで学術的な視点も交えながらホノルルの文化や歴史を紹介し、またホノルル美術館の館長や学芸員など美術館同士の関係構築を構築することもでき、両市の友好を深める良い機会となった。「自転車の世紀展」では、絵画等の作品を展示するという通常の美術館の姿とは異なる新たな姿（魅力）を見ることができた。観覧者数は想定より少ない結果となったが、県外からも多くのサイクリストが訪れるなど、新規観覧者の獲得につながった。また、ミヤタ自転車と茅ヶ崎の関わりやプロサイクリストの別府史之選手に関する講演会を行うなど、「自転車のまち茅ヶ崎」というこの土地ならではの手法で紹介することができたことを高く評価する。また、夏の福袋展では、館内を動物園に見立て、動物をモチーフにした作品を数多く展示し、子どもから大人まで楽しむことができる企画となった。いずれも多くのメディアに取り上げられ、またfacebookなどのSNSを活用した日々の情報発信、駅構内への看板掲出など、積極的かつ継続的な広報活動に努めていたことも高く評価する。今後も当館ならではの企画を打ち出すとともに、新聞やテレビなどの多くのメディアに取り上げられ注目されるような戦略的な広報活動に尽力してほしい。</p> <p>一方で、平成29年度は臨時休館日による開館日が年間50日間あった。展示替えや展覧会などに伴う休館はやむを得ないが、観覧者数や貸出利用率の増加につながるため臨時休館日等の設定について検討してほしい。また、展覧会の開始日は日曜日に設定されることが多いが、通例に反せず、会期初めはなるべく続けて開館したり、学校の長期休暇や一般的な年間行事（クリスマス、バレンタインデーなど）にあたる日は開館せず、積極的に関連行事を企画するなど、会期中の休館日の設定や事業企画についても工夫するよう検討してほしいと考える。</p> <p>当館は来年度開館20周年を迎える。この先どのような運営が求められるのか、全国各地の美術館の動向などを敬重に捉えながら積極的に取り組んでほしい。また、カフェ事業者や隣接する松籟庵や図書館、地元商店街等と連携し、本市の文化振興と当館のさらなる発展に努めてほしい。</p> <p>【館内施設・設備等について】 昨年度より懸念していた空調ヒートポンプチャージャーが度重なる故障が発生したことから、空調設備の一部改修工事を実施することとなった。しかしながら、その他にも雨漏りや設備の不具合が生じており、交換部品の供給停止により稼働対応ができないものも出てきているため、ソフト面だけでなく、ハード面においても中長期的な視点で対応を検討する必要があると考えている。今後も良好な展示及び保管環境、快適な鑑賞環境を確保し、利用者サービスの充実を図るため、市及び保守点検業者等との適正な連絡調整により、これまで以上に施設の維持管理に努めてほしい。</p>	
5 評価を受けての今後の取り組み等について（指定管理者意見）	<p>【評価を受けての今後の取り組み等について】 展覧会事業では、「自転車の世紀展」や「ハワイアンキルト展」など、従来とは異なる新たな視点で「茅ヶ崎らしさ」を捉え直す展覧会の実施を試み好評を得た。30年度は美術館の開館20周年を記念し、江戸期の浮世絵から現代に至る作品の中で版画作品にスポットを当て、年間をとおして日本の版画史を辿っていく。また、茅ヶ崎ゆかりの美学家・原安三郎氏が蒐集した未公開版画コレクションを当館で初めて展示する企画も計画している。</p> <p>講座・ワークショップ事業では、新たにかながわ国際交流財団と県内公立美術館3館と連携する事業をスタートした。本事業は、障がい者や在留外国人など「マイノリティ」とされる人々のミュージアムへのアクセスを高めるために各館が事業を展開する試みである。当館では、主に障がい者を対象としたプログラムづくりに着手し、31年度まで継続する予定である。今後も他館等と連携しながらブラッシュアップを図っていく。</p> <p>広報活動については、マスメディアへの周知に加え、新たにツイッターによる周知を開始し、SNSによる情報発信の幅が広がった。また、タウン紙や地域情報サイトへの情報提供を積極的に進め、一定の成果が上がっている。今後とも各メディアのほか、事業の内容に合わせてきめ細かな周知を行い、さらなる来館者の獲得につなげていきたい。</p> <p>このように、茅ヶ崎らしさをアピールする展覧会の開催を実現することができたことは、美術館開館準備段階から今日までの約20年間に渡り美術館の管理運営に携わってきた当財団の強みであると考えている。今後もこれまでに得られたノウハウやネットワークを活かし、市民サービスの向上に結び付く事業展開を行っていく。</p> <p>開館日数については、30年3月下旬に収蔵庫内の換気等のため、例年比10日程度休館の日数が増えた。近年は年間を7期に分けて展覧会を実施し、その都度展示替えに伴う臨時休館日が発生しているが、1回あたりの休館日数は近隣美術館と比べても少なく、これ以上の縮減は難しい状況である。そのため、平成28年度よりゴールデンウィーク明けの休館日を臨時に開館するなど、来館者の獲得を図っている。開館に伴う人件費及びその他経費の増加など、条件的に厳しい面もあるが、今後もさらなる工夫を重ね、柔軟な運用により利便性の向上に努めていきたい。</p>	<p>【指定管理者選定等委員会において選定時及び評価結果を報告した際に改善すべきとされた事項の改善進捗状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本部経費の割り振り方について、予算に含める基準を市と協議して整理すること。</li> <li>・本部経費については、当財団の改革アクションプランのロードマップに基づき、平成30年度中に方向性を定められるよう、市との協議を進めていく。</li> <li>・プレスリリースによるメディア掲載等、経費をかけなくても広報・宣伝の効果を得られるような方法を求め、積極的に周知を行っていくこと。</li> <li>・フェイスブックに引き続き29年度はツイッターを開発し、フェイスブックは160件超、ツイッターは140件超の情報発信を行った。その中でも特にハワイアンキルト展は、SNSを通して多くのキルト（ハワイアンキルトの愛好家）によって紹介され、またNHKの「日曜美術館」のアートゾーンで取り上げられたことで、全国各地からの来訪に結びついた。また、地域情報、美術館・博物館情報、観光情報など、無料で紹介するホームページへの情報提供も積極的に進めた。今後も様々なメディアへの情報提供を積極的に進めていく。</li> <li>・利用者増のため、自主事業を積極的に実施し、どのように施設を有効活用するのかについて事業計画に反映させること。</li> <li>・引き続き、美術館事業の根幹となる展覧会事業の充実を、4回の企画展を維持するとともに、他の美術館との連携を行うなどして経費を抑えながら様々なジャンルに芸術を紹介するよう努めている。29年度はエントランスホールにおいてミニ展示を3回行うなど、積極的な活用を行っている。また、2階にあるカフェと連携し、展覧会の作品をイメージしたコラボケーキを期間限定で販売するなど、施設全体での相乗効果による盛り上げにも努めている。</li> <li>・大規模な美術館にはない「地域の美術館」としての強みや特色を明らかにして、事業運営にあたること。</li> <li>・開館以来、地元の美術活動を牽引してきた茅ヶ崎美術家協会や茅ヶ崎市・壺川町の中学校・高校と共催した美術展を毎年開催し、地域の創造的な芸術活動を支援してきた。また、市内の若い世代に美術館に来てもらうための博物館学研究室との協働によりミュージアムグッズの開発やワークショップの開催を行うなど、地域の若い世代を巻きこむ事業に引き続き取り組んでいる。このほか、企画展では、特色ある取り組みとして、物故作家から新進気鋭の作家まで世代やジャンルを問わず、茅ヶ崎ゆかりの作家を毎年必ず取り上げ、市民に紹介してきたが、今後も継続して地域の芸術文化を広く紹介していく。29年度は、上述したように、自転車やハワイアンキルトなど、茅ヶ崎ならではのテーマに取り組み、地元市民や諸団体と連携し作り上げたほか、他の2つの企画展でも茅ヶ崎ゆかりの作家を多く取り上げた。こうした取り組みにより、市内及び近隣の学校等からの見学者も増えてきている。今後も地域と密着した事業展開を進めていきたい。</li> </ul>

【施設番号 7】

第2号様式			
平成28年度 指定管理業務総括評価票（非公募施設用）			
施設所管課：文化生涯学習部文化生涯学習課（内線：1242）			
施設名	茅ヶ崎市美術館		
指定管理者名	公益財団法人茅ヶ崎市文化・スポーツ振興財団		
指定期間	平成28年4月1日～平成32年3月31日〔4年〕		
評価項目	評価基準	施設所管課コメント	
1 実施体制	人員体制	<p>事業計画書に即し、人員を過不足なく配置している。</p> <p>必要な資格、経験等を有する人員が確保されている。</p> <p>事業計画書に即し、計画的に研修等を実施している。</p>	<p>外部の研修（国立美術館キュレーター研修等）に積極的に参加し、スキルや意識の向上に努めている。</p> <p>月に1回ミーティングを行うことにより、職員間で情報共有が図られている。また、企画展ごとに受付・監視員を含む全職員に対し、担当学芸員より展示等に関するレクチャーを行うなど、来館者サービスの向上に努めている。</p>
	外部委託	<p>外部委託の内容は、事前に市の承認を受けており、適切である。</p> <p>外部委託事業に対して協定書等を遵守させている。</p>	<p>外部委託は適切に実施されており、協定書等も遵守されている。</p>
	法令等遵守	<p>法令、条例等に基づき、必要な点検（空調・冷蔵・冷凍機器等の簡易点検含む）、報告等を行っている。</p>	<p>設備の保守点検等を適切に行っている。</p>
	個人情報保護	<p>個人情報保護に関する規程が整備されている。</p> <p>個人情報の漏洩、滅失等の事故防止対策を講じている。</p>	<p>規程は整備されていた。今後も引き続き、セキュリティ対策の強化及び事故発生時の迅速な初期対応について体制を再構築するよう徹底してほしい。</p>
	情報公開	<p>情報公開に関する規程が整備されている。</p> <p>協定書等に従い、情報を適切に管理、公表している。</p>	<p>規程は整備されている。また、情報の管理は適切に行われている。平成28年度の情報公開請求は無かった。</p>
	管理記録	<p>業務日誌等を適切に整備、保管している。</p> <p>点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。</p>	<p>業務日誌の整備・保管は適切に行われている。また、点検、修繕等の履歴は適切に記録されている。</p>
	連絡調整	<p>協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。</p> <p>市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。</p>	<p>各種報告書は提出されているが、年次報告書及び事業ごとの実績報告書は期日（事業終了後60日以内）を過ぎて提出された。</p>
	緊急対応	<p>事故、災害等の緊急時の連絡体制が確保されている。</p> <p>緊急時のマニュアルが整備され、定期的に訓練等を行っている。</p> <p>緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行った。</p>	<p>連絡体制は確保され、マニュアルも整備されている。平成28年度は美術館の全職員（受付・監視員を含む）、隣接する松籟庵で合同の消防訓練を行った。</p>
	財務状況	<p>団体の財務状況は、業務の継続が可能な状態である。</p>	<p>業務の継続が可能な状態である。</p>
	2 内容・水準	施設管理	<p>協定書等に従い、開館日、開館時間等を遵守している。</p> <p>事故防止及び安全確保のために必要な対策を講じている。</p>
利用者対応		<p>利用許可、案内等を迅速かつ適切に行っている。</p> <p>利用者に対して設備、備品等を適切に提供している。</p> <p>言葉遣い、態度、服装等の接遇について適切である。</p>	<p>いずれも適切に行われている。</p>
事業運営		<p>事業計画書に即し、受託業務を実施している。</p> <p>施設の目的に沿って、自主事業を実施している。</p> <p>事業内容がサービス水準の向上に寄与している。</p>	<p>いずれも適切に行われている。施設の目的に沿った自主事業に積極的に取り組み、サービス水準の向上に寄与している。</p>
維持管理		<p>仕様書等に従い、清掃、警備、衛生管理を適切に行っている。</p> <p>仕様書等に従い、施設・設備の保守管理を適切に行っている。</p> <p>備品台帳に基づき、備品を適切に管理している。</p> <p>協定書等に従い、適切に修繕を行い、市に報告している。</p>	<p>いずれも適切に行われており、市への報告も行われている。ただし、開館から18年が経過し、空調設備をはじめ経年劣化等による施設・設備等の不具合が顕著になっている。今後は単に市へ報告するだけでなく、定期点検時などに施設・設備等の状況を確認し、その後の対処について業者等と調整し検討するなど、率先して保守管理に努めてほしい。</p>

評価項目	評価基準	施設所管課コメント	
2 内容・水準	環境配慮	省エネルギー、省資源等環境への配慮がなされている。	温度調整等、電気使用量の抑制等の省エネルギーに努めている。前年度より電気料を60万円程度削減できた。
	広報活動	事業の開催案内、ホームページの管理等を適切に行っている。	ホームページ及び公式フェイスブックの管理等は適切に行われている。
	苦情等対応	苦情、要望等に対して迅速かつ適切に対応している。 苦情、要望等を整理し、遅滞なく市に報告している。	対応は迅速かつ適切に行われ、市への報告も遅延なく行われている。
	利用者アンケート	利用者アンケート調査を実施し、その結果は妥当である。	利用者アンケートを実施し、妥当な結果を得ていたが、今後はアンケートをどのように事業等へ反映したのかが示してほしい。
	利用状況	利用者数、稼働率等は適正な水準にある。	適正な水準にある。企画展「マティスが認めた日本人画家一歿後20年—青山義雄展」は7,569人、企画展「北斎漫画展 画は伝神の具也展」は7,049人の観覧者を迎える大変好評な展覧会となり、平成28年度の来館者及び観覧者数は前年度と比較して、やや増加する結果となった。
3 収支等	その他自由項目		
	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え、適切に経理事務を行っている。	
	予算執行	収支予算書の範囲内で適正に予算を執行している。	いずれも適切に行われており、収支状況は妥当である。
	経費縮減 収支状況	経費が節減され、又はその節減に向けた努力を行っている。 収支予算書と比較して、収支状況は妥当である。	
4 総合評価	<p>展覧会については、企画展「マティスが認めた日本人画家一歿後20年—青山義雄展」及び「北斎漫画展 画は伝神の具也展」は、市内外を問わず多くの方が訪れ、開館後歴代2位・3位の観覧者数を記録する大変好評な展覧会となった。特に青山展はNHKの番組「日曜美術館」で紹介され、茅ヶ崎市美術館を全国的にPRする良い契機となったと考える。また、夏の福袋展では五感を使って楽しむ作品を展示するという子どもから大人まで楽しむことができる企画を打ち出し、また小学校の児童一人ひとりにチラシを配布した効果もあり、夏休み期間には多くの子どもたちが訪れた。今後も学芸員をはじめ、全職員がより良い美術館の運営を目指し、展覧会の企画及び広報活動等、引き続き積極的に取り組んでほしい。</p> <p>館内施設・設備等については、開館から18年が経過し、老朽化等による不具合が顕著になっている。特に重要部分である空調・ヒートポンプチャラーの故障発生率が最も高く、補修部品の入手も年々困難になってきている状況であることから、今後は長期的に機能維持を図るため設備更新の実施を検討するとともに、その他の設備等も含め中長期的な修繕計画の策定に向けて協議し検討していく予定である。施設の維持管理及び利用者サービスの充実に努めるため、今後はより積極的に施設の保守管理に努めてほしい。</p> <p>平成28年度は休館日及び臨時休館日により年間107日間を閉館していた。展示替え等のために展示室への出入りを禁止することはやむを得ないと思うが、臨時休館日については完全に全館を閉館するのではなく、アトリウム等の貸館スペース等の一部を開放するなど、利用率を増やす工夫を検討した方が良いと考える。また、館のより良い運営に向けてカフェ事業者と連携し、互いの相乗効果につながるよう事業周知に努めてほしい。</p>		
5 評価を受けての今後の取り組み等について (指定管理者意見)	<p>【評価を受けての今後の取り組み等について】</p> <p>展覧会事業については、青山義雄および墨師北斎と知名度も高い作家の作品を取り上げることができ、観覧者数増に結び付いた。また、夏の福袋展は、幅広い世代が楽しめる参加型の展覧会であったが、視覚障害者と聴覚者が協力して作品鑑賞を行うワークショップなどを開催し、来館者層をより広げるための新たな試みにも取り組んだ。なお、夏の福袋展は、全国の公立美術館が加盟する「美術館連絡協議会」において優れた教育普及事業として選ばれ、30万円の助成金が交付されている。今後も、地域に根差した美術館としての役割を踏まえつつ、より多くの観覧者の獲得に努めるとともに、これまで美術館を訪れる機会がなかった方々にも足を運んでもらえるような事業の実施に取り組んでいく。</p> <p>広報活動については、平成27年度から始めたフェイスブックに加えインターネット上の各種メディアへのプレスリリースなど経費負担が少ない新たな広報媒体の開拓を積極的に行ってきたが、さらなるSNSの活用など幅広い世代への情報提供を目指していく。施設管理においては、特に空調機器の老朽化が著しく、利用者サービスに加え収蔵作品保護の観点からも改善が急がれるところである。また、照明器具についても耐用年数に限りがあるスポットライトのメーカー在庫不足が進み、展覧会や施設貸出への影響が懸念されるなど、不具合は増加傾向にあるため、指定管理者としてより細心の注意を払い問題の洗い出しと迅速な対応に努めていく。</p> <p>臨時休館日におけるアトリウム等の貸出施設の開放は、展示替え中、1階・地下階での作品移動に加え、アトリウム前に展示用具保管庫があり、全館において作業があることやこの期間に設備の保守点検や修繕を行うことなどの理由により来館者の安全確保および作品保護の観点から難しい状況にある。今後は、施設貸出に関する広報の充実や貸出方法の見直しを図るなどして利用率の向上に努めたい。</p> <p>なお、28年度は初めての試みとして、5月のゴールデンウィーク明けの休館日3日間について臨時に開館し、観覧者や貸出施設利用者の利便性向上を図った。</p> <p>【指定管理者評価会議において改善すべきとされた事項の改善進捗状況】</p> <p>本部経費については、財団が受託している指定管理施設全体に関わる経費のため、各施設の指定管理期間などを考慮し、財団としての予算計算のルール作りを検討している。</p> <p>近年インターネット上で、地域情報や美術館・博物館情報、また観光情報など美術館の情報を無料で紹介するホームページが増えきていることから、28年度はこれらのサイトの検索に努めプレスリリースを行った。アンケートでは、まだその効果は現れてきてはいないが、29年度はツイッターの活用も計画しており、今後も様々なメディアへの情報提供を積極的に行っていく。</p> <p>美術館の根幹となる活動である展覧会事業の充実が利用者増に結び付くので、27年度からは企画展を3回から4回に増やすとともに、他の美術館との連携も積極的に行うなどとして、経費を抑えながら様々なジャンルの芸術を紹介するよう努めている。28年度は山形美術館の協力を得て「北斎漫画展」を開催した。また、休館日の一部において臨時開館を実施するなど、施設の利用機会の拡大を図っている。</p> <p>開館以来、地元の実術活動を牽引してきた茅ヶ崎美術家協会や茅ヶ崎市・寒川町の中学校・高校と共催した美術展を毎年開催し、地域の創造的な芸術活動を支えてきた。特に、中学校美術作品展の来館者数は増加傾向にあり、28年度は過去最高の3,611人を記録するなど市民の認知度が上がってきており、展覧会事業において欠かせない存在となった。また、市内の若い世代に美術館に来てもらうために平成24年度より市が始めた学校連携事業を受け継いだ「スクールプログラム事業」では、子どもたちが企画展の作品作りに参加する機会を設けたり、地元の大学の博物館学研究室との協働によりミュージアムグッズの開発やワークショップの開催を行うなど、他の美術館との連携も積極的に行うなどとして、経費を抑えながら様々なジャンルの芸術を紹介するよう努めている。28年度は山形美術館の協力を得て「北斎漫画展」を開催した。また、休館日の一部において臨時開館を実施するなど、施設の利用機会の拡大を図っている。</p> <p>開館以来、地元の実術活動を牽引してきた茅ヶ崎美術家協会や茅ヶ崎市・寒川町の中学校・高校と共催した美術展を毎年開催し、地域の創造的な芸術活動を支えてきた。特に、中学校美術作品展の来館者数は増加傾向にあり、28年度は過去最高の3,611人を記録するなど市民の認知度が上がってきており、展覧会事業において欠かせない存在となった。また、市内の若い世代に美術館に来てもらうために平成24年度より市が始めた学校連携事業を受け継いだ「スクールプログラム事業」では、子どもたちが企画展の作品作りに参加する機会を設けたり、地元の大学の博物館学研究室との協働によりミュージアムグッズの開発やワークショップの開催を行うなど、他の美術館との連携も積極的に行うなどとして、経費を抑えながら様々なジャンルの芸術を紹介するよう努めている。28年度は山形美術館の協力を得て「北斎漫画展」を開催した。また、休館日の一部において臨時開館を実施するなど、施設の利用機会の拡大を図っている。</p> <p>開館以来、地元の実術活動を牽引してきた茅ヶ崎美術家協会や茅ヶ崎市・寒川町の中学校・高校と共催した美術展を毎年開催し、地域の創造的な芸術活動を支えてきた。特に、中学校美術作品展の来館者数は増加傾向にあり、28年度は過去最高の3,611人を記録するなど市民の認知度が上がってきており、展覧会事業において欠かせない存在となった。また、市内の若い世代に美術館に来てもらうために平成24年度より市が始めた学校連携事業を受け継いだ「スクールプログラム事業」では、子どもたちが企画展の作品作りに参加する機会を設けたり、地元の大学の博物館学研究室との協働によりミュージアムグッズの開発やワークショップの開催を行うなど、他の美術館との連携も積極的に行うなどとして、経費を抑えながら様々なジャンルの芸術を紹介するよう努めている。28年度は山形美術館の協力を得て「北斎漫画展」を開催した。また、休館日の一部において臨時開館を実施するなど、施設の利用機会の拡大を図っている。</p>		

【施設番号 7】

第2号様式			
平成27年度 指定管理業務総括評価票（非公募施設用）			
施設所管課：文化生涯学習部文化生涯学習課（内線：1242）			
施設名	茅ヶ崎市美術館		
指定管理者名	公益財団法人茅ヶ崎市文化・スポーツ振興財団		
指定期間	平成24年4月1日～平成28年3月31日〔4年〕		
評価項目	評価基準	施設所管課コメント	
1 実施体制	人員体制	<p>事業計画書に即し、人員を過不足なく配置している。</p> <p>必要な資格、経験等を有する人員が確保されている。</p> <p>事業計画書に即し、計画的に研修等を実施している。</p>	<p>外部の研修（キュレーター研修、学芸員専門講座等）に積極的に参加しており、スキルや意識の向上に努めている。また、月に1回ミーティングを行うことにより、職員間で情報共有が図られている。</p>
	外部委託	<p>外部委託の内容は、事前に市の承認を受けており、適切である。</p> <p>外部委託事業に対して協定書等を遵守させている。</p>	<p>外部委託は適切に実施されており、協定書等も遵守されている。</p>
	法令等遵守	<p>法令、条例等に基づき、必要な点検（空調・冷蔵・冷凍機器等の簡易点検含む）、報告等を行っている。</p>	<p>設備の保守点検等を適切に行っている。</p>
	個人情報保護	<p>個人情報保護に関する規程が整備されている。</p> <p>個人情報の漏洩、滅失等の事故防止対策を講じている。</p>	<p>規程は整備されている。しかし、職員が個人で利用していたウェブメールより個人情報（メールアドレス）が流出した可能性があるという事態が生じた。その後は、サーバーの保守管理体制を強化し、市が主催する情報セキュリティ研修へ全職員が出席した。今後も引き続き、セキュリティ対策の強化及び事故発生時の迅速な初期対応について体制を再構築するよう徹底し、再発防止に努めてほしい。</p>
	情報公開	<p>情報公開に関する規程が整備されている。</p> <p>協定書等に従い、情報を適切に管理、公表している。</p>	<p>規程は整備されている。また、情報の管理は適切に行われている。なお、平成27年度の情報公開請求はなかった。</p>
	管理記録	<p>業務日誌等を適切に整備、保管している。</p> <p>点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。</p>	<p>業務日誌の整備・保管は適切に行われている。また、点検、修繕等の履歴は適切に記録されている。</p>
	連絡調整	<p>協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。</p> <p>市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。</p>	<p>各種報告書は提出されている。月次報告書は提出されているが、年次報告書及び事業ごとの実績報告書の提出は遅れている。</p>
	緊急対応	<p>事故、災害等の緊急時の連絡体制が確保されている。</p> <p>緊急時のマニュアルが整備され、定期的に訓練等を行っている。</p> <p>緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行った。</p>	<p>連絡体制は確保され、マニュアルも整備されている。平成27年度は美術館の全職員、隣接する松頼庵の職員及びカフェの従業員を含めた合同の消防訓練を行った。次年度以降は、何の訓練なのかを全職員が意識し、緊張感を持って参加・実施してほしい。また、防災用具等の保管場所、災害別の避難・誘導ルート等を全職員がきちんと把握しておく必要があると感じた。</p>
	財務状況	<p>団体の財務状況は、業務の継続が可能な状態である。</p>	<p>業務の継続が可能な状態である。</p>
	2 内容・水準	施設管理	<p>協定書等に従い、開館日、開館時間等を遵守している。</p> <p>事故防止及び安全確保のために必要な対策を講じている。</p>
利用者対応		<p>利用許可、案内等を迅速かつ適切に行っている。</p>	<p>いずれも適切に行われている。</p>
		<p>利用者に対して設備、備品等を適切に提供している。</p> <p>言葉遣い、態度、服装等の接遇について適切である。</p>	

評価項目	評価基準	施設所管課コメント	
2 内容・水準	事業運営	事業計画書に即し、受託業務を実施している。 施設の目的に沿って、自主事業を実施している。 事業内容がサービス水準の向上に寄与している。	いずれも適切に行われている。施設の目的に沿った自主事業に積極的に取り組み、サービス水準の向上に寄与している。
	維持管理	仕様書等に従い、清掃、警備、衛生管理を適切に行っている。	いずれも適切に行われており、市への報告も行われている。ただし、開館当初と比較し、経年劣化等により施設・設備等の不具合が顕著となっている。空調等の点検業者等への委託業務内容（仕様）について検討するなど、今後はより保守管理を徹底するよう努めてほしい。
		仕様書等に従い、施設・設備の保守管理を適切に行っている。	
		備品台帳に基づき、備品を適切に管理している。	
		協定書等に従い、適切に修繕を行い、市に報告している。	
	環境配慮	省エネルギー、省資源等環境への配慮がなされている。	温度調整等、電気使用量の抑制等の省エネルギーに努めている。前年度より電気料を130万円程度削減できた。
	広報活動	事業の開催案内、ホームページの管理等を適切に行っている。	公式フェイスブックページを立ち上げ、管理等も適切に行われている。
	苦情等対応	苦情、要望等に対して迅速かつ適切に対応している。	対応は迅速かつ適切に行われ、市への報告も遅延なく行われている。
		苦情、要望等を整理し、遅滞なく市に報告している。	
	利用者アンケート	利用者アンケート調査を実施し、その結果は妥当である。	利用者アンケートを実施し、妥当な結果を得ている。
利用状況	利用者数、稼働率等は適正な水準にある。	適正な水準にある。平成27年度はやや増加した。企画展「萬鉄五郎生誕130年 棟方志功没後40年『棟方志功 萬鉄五郎に首っだけ』展」は、6,541人の来館者を迎え、大変好評な展覧会となった。	
その他自由項目			
3 収支等	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え、適切に経理事務を行っている。	いずれも適切に行われており、収支状況は妥当である。
	予算執行	収支予算書の範囲内で適正に予算を執行している。	
	経費縮減	経費が節減され、又はその節減に向けた努力を行っている。	
	収支状況	収支予算書と比較して、収支状況は妥当である。	
4 総合評価	<p>展覧会については、岩手県の萬鉄五郎記念美術館と共同開催で行った企画展「萬鉄五郎生誕130年 棟方志功没後40年『棟方志功 萬鉄五郎に首っだけ』展」では、市内外を問わず多くの方々を訪れ、また、美術館連絡協議会において「美連協奨励賞」を受賞するなど大変好評な展覧会となった。同展はマスコミにも多く取り上げられ、茅ヶ崎市美術館をPRする良い契機となった。今後も学芸員をはじめ、全職員がより良い美術館の運営を目指し、展覧会の企画及びその広報活動等、次年度も引き続き積極的に取り組んでほしい。</p> <p>館内施設・設備等については、今年度は館内の自動火災報知設備の更新修繕を行った。その他、近年は空調機器をはじめ、経年劣化による不具合が顕著となっており、館内環境は万全ではない状況である。次年度は修繕すべき箇所をリスト化し、優先度の高いものから取りかかれるよう指定管理者とともに中長期的な視点をもって検討する。今後も引き続き、施設の維持管理及び利用者サービスの充実に向け、施設及び館内設備等の整備については、より積極的に努めてほしい。</p> <p>また、美術館及び市役所分庁舎地下収蔵庫内に保管している美術品等の整理及び保管等も課題の一つである。次年度は備品台帳の精査を図るとともに、美術品審査委員会の審査基準等についても学芸員及び審査委員とともに検討していきたい。</p>		
5 評価を受けての今後の取り組み等について (指定管理者意見)	<p>【評価を受けての今後の取り組み等について】</p> <p>各種事業については、学芸員3名体制となってからそれぞれの専門分野を活かすことにより事業展開の幅が広がるようになった。展覧会事業については、周年事業などを視野に入れながら中期的な計画策定に努め、広範囲における早期周知の充実を図っている。今後も若い世代をはじめ、多くの市民の方が来館し、美術・芸術に気軽に親しむことができる施設となるよう事業の充実を図っていく。一方で、駅や幹線道路から美術館までのアクセス案内については、アンケートなどでも依然として一番苦情が多いため、市と相談しながら改善に努めたい。</p> <p>施設・設備の維持管理については、老朽化が進んでいるため、来館者の安全やサービスの低下を招かぬよう、維持管理により一層の注意を図っていく。収蔵作品の管理については、収蔵スペースが限界を迎えており、今後の作品収蔵にも影響を及ぼすことから早急な対応を市と連携しながら進めていきたい。</p> <p>【指定管理者評価会議において改善すべきとされた事項の改善進捗状況】</p> <p>広報・宣伝については、SNSの活用を始めたが、まだ十分な効果をおげているとは実感できていない。現在増加傾向にある無料ネット地域情報サービスを利用するなど経費の削減に努めるとともに、より多彩な情報提供を積極的に行っていく。</p> <p>施設の有効活用について、展示室については、ホームページ上で空き状況を早期に公開出来るよう努めるなど稼働率の向上を図った。アトリエについては、春季・夏季に3日間ずつ無料開放を実施し、地元大学の協力を得ながら幅広い世代を対象としたワークショップを行うなど、新たな利用者層の掘り起こしを行った。</p> <p>地域の美術館としての強みを活かした取り組みは、前述の大学との連携をはじめ、夏の企画展「夏の福袋 正しいらかき展」でも地元の小学生・高校生や市民が作品制作に携わる参加型の事業を実現したほか、地域の美術団体及び中学校・高校との共催による美術展を開催した。また、藤沢市・茅ヶ崎市・寒川町の二市一町による美術展「絵はがきになった湘南の風景展」や、湘南を拠点に斬新な作品を発表し続けた作家「島谷晃」の回顧展を実施するなど事業の多くは地域と密着した内容となっている。</p>		